

# 新年のご挨拶

鹿児島県水産技術開発センター 所長 松元利夫

皆様、明けましておめでとうございます。新春のお慶びを申し上げます。これまで同様、本年もどうぞよろしくお願い致します。

昨年はなんと言っても、業界に吹き荒れた燃油高騰の嵐と長引く魚価の低迷が昨今の経済不況でさらに拍車をかけ、本県の漁業界もその波に飲み込まれて、大変厳しい1年であったと思います。鹿児島湾では数年ぶりの有害赤潮も発生して緊張しましたが、漁業被害がなかったことは不幸中の幸いでした。

当センターの昨年の出来事を振り返ってみますと、まず、種苗開発部では、カンパチが84千尾の生産で過去最高レベルとなり、スジアラも史上最高の54千尾の生産に成功、ヤコウガイも16千個を超える放流数で過去最高のできとなり、関係の皆様喜んでいただいたところです。

また、資源管理部では平成19年1月、甌島でアーカイバルタグにより、ヨコワを放流しましたが、1年10ヶ月ぶりに成長したクロマグロがメキシコで再捕されました。今後、回遊経路の推定がなされる予定です。

安全食品部では、競争的資金の確保に尽力し、一挙に4件を抱えることになりました。養殖業界の強い要請であるタウリンの有効性を探る研究やハダムシ対策などに着手しました。

また、企画研修部が運営する漁業情報システムでは、アクセス件数が289千件（H20.12.31現在）と年々増大しており、これらの情報発信が本県のみでなく全国からも注目されているものと自負しております。

今年は、当水技センターも発足以来、まる5年を経過することになり、我々の真価を問われる時期と思われます。技術の発展がなければ水産業の将来はありません。財政面からの厳しい情勢は一層進むと思われますが、金がなければ知恵を出せ、知恵もなければ汗を出せと、昔からよく言われております。競争的資金の確保に努めつつ、県下漁業関係者の期待に応えて、新しい技術開発に一層努めていかなければなりません。課題は山ほどありますので、決意を新たに、前進あるのみ、チャレンジ精神でもって成果が得られるよう果敢に挑戦して参りたいと考えております。

関係の皆様の一層のご協力とご支援を心からお願いして、新年のご挨拶といたします。

